

「美唄市食育推進計画」（案）（本編）パブコメ終了後の整理

整理内容

本計画（案）について、内容がわかりやすくなるように字句の訂正、説明文の追加などの整理を行いました。
整理変更点は、次のとおりです。

項目	頁	整理後	整理前
の2つ目	7	肥満や過度なやせ志向は、健康を害するおそれがあることを理解し、栄養バランスのとれた正しい食を考え、偏食をせずに望ましい食習慣を実践していくことが必要です。	肥満や過度なやせ志向は、健康を害することにつながることを理解し、栄養バランスのとれた正しい食を考え、偏食をせずに望ましい食習慣を実践していくことが必要です。
全国における世帯員の食品使用割合	8	食品類別に食品使用量割合をみると、平成19年では「野菜類」が20.4%と最も高く、次いで「 <u>その他加工品</u> 」が19.6%、「調理加工食品」が	食品類別に食品使用量割合をみると、平成19年では「野菜類」が20.4%と最も高く、次いで「調理加工食品」が
地産地消の取り組み	12	このほか、美唄産の*初冬まき小麦「春よ恋」を使用した美唄ラーメン、パンなどの加工品や	このほか、*初冬まき小麦「春よ恋」を使用した美唄ラーメン、パンなどの加工品や
「食育」への関心の变化	16	平成20年は、前年と比較して食育への関心が	平成20年は、前年度と比較して食育への関心が
「食材の安全性」への意識	16	平成20年は、前年と比較して安全性を意識している購入している人の割合が	平成20年は、前年度と比較して安全性を意識している購入している人の割合が
安全性への意識のポイント	17	《安全性への意識》平成20年は、前年と比較して、	《安全性への意識のポイント》平成20年は、前年度と比較して、
2 美唄市の食育推進体系「主な現状」	19	現在は、食生活の乱れから不規則な食生活になりがちで、心身ともに健康で豊かな人間性を育む上で懸念されています。	現在は、食生活の乱れから不規則な食生活になりがちで、心身ともに健康で豊かな人間性を育むことが懸念されています。
2 美唄市の食育推進体系「主な現状」	19	普段私たちの生活の中で普通に食べている食材の中には、産地の偽装や基準値を大幅に超えた農薬で生産されたものなど、安全を脅かすものが含まれていることがあります。	普段私たちの生活の中で普通に食べている食材の中には、産地の偽装や基準値を大幅に超えた農薬で生産されたものなど、安全を脅かすものが含まれています。
2 美唄市の食育推進体系「主な課題」	19	安心できる食生活を送るためには、食の安全に関心を持ち、自ら食の選択を判断することが大切です。また、生産者と消費者の顔が見える地場の農産物などを積極的に取り入れていくことが大切です。	食を安心して食べるためには、食の安全に関心を持ち、自ら食の選択を判断することが大切です。また、生産者と消費者の顔が見える地場の農産物などを積極的に取り入れていくことが大切です。
健康と食を考えよう！（3）	20	妊産婦や乳幼児とその保護者に対する栄養指導の推進	妊産婦や乳幼児に対する栄養指導の推進
取り組む方向（3）	20	(3)安全・安心な食材を消費者に届けていく。	(3)安全・安心な食材を消費者などに届けていく。
(3)施策 妊産婦や乳幼児とその保護者に対する栄養指導の推進	23	妊産婦や乳幼児とその保護者に対する栄養指導の推進	妊産婦や乳幼児に対する栄養指導の推進
妊産婦や乳幼児とその保護者に対する栄養指導の推進	23	離乳食の調理実習と集団講話・個別栄養相談、親子での試食と地域の方との交流など	離乳食の調理実習と集団・個別児童、親子での試食と地域の方との交流など

<p>地域の教育力 「地域に根ざし、暮らしに学ぶ」ということ</p>	<p>29 地域の教育力 - 「地域に根ざし、暮らしに学ぶ」ということ</p> <p>少子高齢・人口減少時代、グローバル化などの大きな時代の波のなかで、地方はきびしい状況に置かれていますが、いつの時代も、未来を切り拓く力は<地域の持つ教育力>であると思います。</p> <p>それは、地域に生きる人々が、これまで培ってきた知恵や経験を活かし、ともに学び、支え合いながら、地域社会の課題を解決するとともに、その生きる力をしっかりと次代を担う子どもたちに伝えていくことであると思います。</p> <p>子どもにとっては、生まれ育った地域での生活体験が、<自ら学び、ともに学び合う>ことの動機付けや意欲の大きなきっかけとなるとともに、生涯を通した豊かな記憶として、生きる力の糧となるものです。</p> <p>本来、地域にとって子育てや教育は、「子どもたちをどのように育てたいのか、子どもたちに何を伝えたいのか」ということであり、それはまさに<地域の未来>に係わる重要な問題ともいえます。</p> <p>いま、「地域に根ざし、暮らしに学ぶ」という視点から、子どもたちが大人になったとき、地域の生活文化や豊かな自然環境を継承し、そこで育ったことを自らの誇りとして生きていくことができるよう、地域の持つ教育力を再認識し、学校、家庭、地域がそれぞれの役割と責任を担い、力をあわせて、子どもたちを育てていくことが求められています。</p> <p>私たちが生きる時代は、生活に豊かさをもたらした反面、人と自然のかかわりや人と人とのつながりを弱めてきました。このような時代において、自然と人間が調和した新たな取り組みが各地で広がりにつつあり、子どもたち一人ひとりが心豊かに生き生きとたくましく育つことを願って、地域の子どもは地域で育てよう、という動きも強まってきています。</p> <p><生きる力>を育むことをめざした「総合的な学習の時間」とは、地域の自然や生活と結びついた生きた学習として、人間が生涯つづけてゆくであろう、あらゆる学びのもと、自ら学び・自ら考えるという「根っここの学力」を学びの喜びを知るなかで育むことです。</p> <p>このような中で、地域に根ざした食農教育では、もっとも身近な生活行為でありながら、人間の生命の源である食と農をつなぐことによって、人びとが協働して自然に働きかけ、食べものをつくり、暮らしを立てる、という<人間生活の根源>を学ぶことができます。</p> <p>私たちの生活がいかに高度になるうとも、それが生命の連鎖である自然の力と食農という人間の営みを基にして築かれているという<普遍>を知ることが、子どもたちの学習意欲をかき立てます。また、地域の人々によって歴史的に築かれてきた生活の知恵と文化を子どもたちに伝えていくことは、地域社会に大きな元気をもたらすことになるはずで</p> <p>「グリーン・ルネサンス推進事業」は、<自然と人の豊かなふれあいを取りもどし、地域社会を人間の生活の場として再生すること>と、<子どもたちに最高の学習の場を提供し、子どもたちの生きる力を育むこと>、これをひとつのものとして捉え、地域における信頼という確かな<絆>によって、学校現場・教職員を支え、支援する取り組みです。</p> <p>まさに、教育とは、地域の<未来>であり、<希望>そのものです。</p>	<p>記載なし</p>
<p>(1)地元でとれた新鮮でおいしい農産物や加工品などを食べる。</p>	<p>32 * 食料自給率が約40%(*カロリーベース)の日本では、</p>	<p>お米をはじめ*食料自給率が約40%(*カロリーベース)の日本では、</p>
<p>用語解説</p>	<p>55 斑点米 _____カメムシ類の加害によって、玄米に褐色から黒褐色の斑点があるものをいいます。</p>	<p>記載なし</p>